

～開会～

～委員長あいさつ～

## 1. 議事① 第5期京田辺市地域福祉計画の策定について

～事務局から議事①について説明～

【委員長】

ただいまの説明に対して、質問だけでなく提案などいただけると骨子案作成時の参考になると思います。感想でも結構ですのでお願いできればと思います。

【委員】

全体的に厳しい結果が出たと認識するべきだと思います。いろいろと認知度が低いので、何かからやればいいのかという気持ちになる。例えば、ひきこもりに関する相談窓口について、開設して2、3年たっているが認知度は低いし、全体的にそうなのだと思います。それを高齢化と人口減少だけを原因にしているとは思えません。そこをどうしていくのか考えないと、今後も良い結果が出ることは難しいと思います。

【委員長】

指摘をいただいたように全体的に認知度が低いことは、大きな課題だと思いました。福祉は困ったときに分かればいいのかという側面もありますが、ひきこもりの相談窓口など、一生懸命やってくださっているのに、少なくとも窓口があると知っていただくと、必要な方につなげることができるので、知ってもらうことは極めて重要だと思います。その辺りをどうしていくかは次期計画でも重要な課題になると思います。

【委員】

認知度が低いことは課題かもしれませんが、裏返すと市民から相談窓口が見えていないということだと思います。アンケート結果の中でも、相談を受けた時にどこへつないだらいいかわからないという回答もあったので、市の取り組みや設置している相談窓口などをどうすれば知ってもらえるのか考えることが必要だと思います。認知していないことが問題なのではなくて、認知されていないことが課題だと思います。そこをどう改善していくのかについては、次の計画に反映させる必要があると思いました。

【委員長】

市民の方が認知していないことが問題ではなくて、認知されるような活動を行って

いくべきで、特に専門的な相談窓口については、認知度をどのように改善するのかと  
いうことを次期計画では取り上げる必要があるという指摘でした。

#### 【委員】

資料 2 の 7 ページ、支援が必要な家庭の認識についてですが、『隣近所で手助け  
が必要だと思われる家庭について「特にない」と「わからない」が合わせて 6 割を占  
めている』ということが気になりました。地域課題の把握の難しさ、とまとめでいただき  
ましたが、支援体制をつくらうとしている中で、ニーズを拾うことに対する弱さを感じま  
した。必要な支援につながるためには、まずは専門家ではなくて身近な人が気づくこ  
とが大切です。また一方で、ひきこもりやひとり親家庭など、大変だけど支援につな  
がりにくい家庭は、精神疾患や発達障害などの目で見えてわかりにくい困難さを抱えてい  
ることも多いです。このような方を拾っていこうと思うと、専門的な知識を持った人がい  
ないと拾うことができないので、身近な人と専門家のタッグがうまく組めて、支援につ  
ながるといって体制をつくる必要があると思います。

#### 【委員長】

今挙げていただいたような課題を持たれている方は、SOSをご本人が出されな  
かったり、場合によっては出たくないとか、知られなくなかったりということもあるので、  
そういう気づきをどうやって専門職の人とタッグを組んで、つないでいくか、気づいて  
いくかということは、計画の中で考えていく必要があると思います。

次に説明していただく重層的支援体制整備事業の取り組みの中でも、そこが重要  
なテーマになりますので、計画と併せて議論ができたと思います。

#### 【委員】

地域の課題認識について、地域活動の担い手が不足しているということは非常に  
感じている。自治会の役割や関係団体の役割の大切さは知っていても、高齢や仕事  
で役を持たないなど、次につないでいくことが難しいです。今後、この地域福祉計画の  
中でも議論されると思いますが、その辺りを推進していく体制やバックアップがないと、  
自主的な活動は進みにくいと感じています。

#### 【委員長】

資料の 18 ページにもありますが、担い手の問題は上位に上がっていて繰り返し出  
ているテーマでもありますので、計画の中でどのようなことを提示できるか考えていく  
必要があると思います。

#### 【委員】

民生委員が地域の前面に立って活動することが今は非常に難しいです。昨年 12 月は民生委員の一斉改選の時期でしたが、欠員が出た状態でのスタートになりました。担い手不足は過去から継続した課題でしたが、その山を乗り越えられなかったと感じています。地域の課題や民生委員のことについては、災害、事件、大きな事柄、差し迫ったことが起きると、皆さんが興味を持つことで、地域福祉の担い手がどうあるべきか議論して盛り上がるのですが、京田辺市は比較的平穏が続いているので、話題にならなかったと思います。昔は民生委員に対して大きな期待があつて、地域の中で活動していくことに誇りを持っていたと思いますが、今は行政とか福祉施設とか受け皿がたくさんあるので、深刻な問題が起きた時はそれらの機関へ直接話をするのもできるので、そういう流れや全体を見る中で、民生委員は今後どうあるべきか見えてこないところがあります。

#### 【委員長】

民生委員さんの人材の問題は全国的にも大きくなっており、現行の委員の皆さんは苦勞されていることと思います。先ほど指摘があつたように、多くの方が見えていない課題というのは実際にはあるので、そういったところを民生委員さんがいるおかげで、見つけてつないでいただいているということは改めて計画の中でも位置付けていくことが必要だと思ひますし、活動している皆さんを応援して、サポートしていくことは計画の中の重要なテーマだと思ひます。

#### 【委員】

自治会でも担い手不足が大きな問題だと思ひます。自治会活動で何か役をやってもらつても 1 年で交代になると、何を相談されたか分からないという状態です。自治会活動や福祉の問題は、国が援助して、国の施策としてしっかり考えてもらいたいと思ひます。民生委員さんも自治会も基本的にはなり手がいないので、これまでのようにボランティアに任せておく時代は過ぎて、きちんと資格を持った方にきちんと報酬を出してお願いするという形をつくる必要だと思ひます。課題解決のために何が必要か見えてこない、今の形であと何年続けていけるのだろうかと思ひます。社会福祉の問題を含めて、全部関係しているので、その辺りを根本的に解決しないといけないと思ひます。

#### 【委員長】

京田辺市でもそのような状況がみられるということですが、地域によっては、そもそも自治会や町内会が維持できないとか、新しく自治会をつくれないうことが現実になっています。住民自治をどのように考えていくのかということ、福祉担当課で考えることは難しいかもしれませんが、これは地域福祉と関係している問題ですので、住

民自治の担当課と共有して考えていただきたいと思います。

**【委員】**

10 ページの避難行動要支援者登録制度について、知らないという方が 80%近くになっていて、登録を依頼された場合の対応も、引き受けることは難しいなどとなっています。先ほどの自治会の話とも関係しますが、共助に限界がきているので、今後は少しずつ公助を考えていく必要があると感じています。この制度がなかなか根づかない課題はいろいろあると思いますが、アンケート結果から見ると、ますます厳しい状況になると想定できるので、根本的な考え方について検討する必要があると思います。

**【委員長】**

避難行動要支援者登録制度という切り口ではありましたが、全体的な意見であったと思います。リスクの高い方については 1 人 1 人の個別支援避難計画をつくろうということですが、引き受ける方がいなければ計画はつくれませんし、地域によっては、形式的につくっていくとみんなが民生委員さんになったという事例も聞きます。この制度は身近な地域の人でなければ機能しないので、計画の中でも何か検討いただきたいと思います。

**【委員】**

避難行動要支援者登録制度について、私は自分の地域の避難訓練に参加したときに初めてこのような制度があることを知りました。自分もいつかそうなるかもしれないと考えて、自分のことと思うと皆さん関心を持つと思いました。あとは地域の課題ですが、子育て支援に関わっていると移動手段がないというお母さんも結構いらっしゃいました。高齢化が進むと、外出しなくなったり、ひきこもりがちになる高齢者が増えたり、子育て家庭でもそうなる方が増えたりすると困るので、そのような方たちのことも考えてほしいと思います。

**【委員長】**

高齢者だけではなくて、子育て世代でも移動で困っておられる方がいるということですね。移動手段の問題は、どちらかというと高齢者の問題として多く出てくるのですが、子育て世代の方の課題などもこの会議において発言をいただければと思います。

**【委員】**

避難行動要支援登録者制度について、地域によっては高齢者で高齢者を支える状態になっているが、高齢者は介護保険を使っている方も多いと思うので、例えば、訪問看護の看護助手さんなど施設の方が避難行動要支援者登録制度で登録できる

ようにすると負担が減るのではないかと思います。

#### 【委員長】

避難行動要支援者名簿など個別避難計画の中で、専門職の方が支援者になることは考えられると思います。もちろん専門職の方が遠くに住んでいると、いざというときに駆けつけることができないということもあるので、専門職の方と地域の方とが両方揃うと一番いいと思いますが、地域の中でそれが難しい場合は、専門職の方の力も借りながら、誰がどのように指揮を執るのか考えておくことが重要だと思います。この辺りは、計画の中でも位置づけられるといいと思います。

#### 【委員】

主任児童委員は民生委員の中でも子どもに関わる民生委員ですが、主任児童委員の担い手不足については、定年が65歳なので、50代の方を探そうとするのですが皆さん働いておられるし、30代40代の方だと子育てで忙しいですし、60代の方だとすぐに定年が来てしまうしということで、本当に難しいです。民生委員の仕事は、地道で長い時間をかけて地域の方と関わっていくので、それを考えると、民生委員制度自体が限界と感ずることもありますし、昔の民生委員さんという感覚も限界ではないかと感ずています。

#### 【委員長】

この間、別の民生委員の方と話をしていたときに、やっぱり大変なんだけれども100年以上やってきて、やめるのは簡単だけど多分同じことは2度とできないから何とかこれを頑張って維持していけるように考えていかないといけないと話をされていました。民生委員制度は、全国の津々浦々で地域の皆さんが、子どものこと、高齢者のこと、困っている方のことを自発的に考えてくださって、それを行政につないでくださるという、世界的に見ても日本固有の素晴らしい仕組みだと思いますが、民生委員さんの方には負担になっているということで、それをどのように応援していくか、続けていくかというのは計画の重要なテーマだと思います。

#### 【委員】

身体障害者協会でも一番悩んでいることは担い手です。京田辺市の障害者協会も今は70代80代の方が中心です。聴覚の人が役員になると、手話通訳者が必要になりますし、肢体の方は動ける方でも行き来するのが大変という人がほとんどです。そのような状況で徐々に人が減ってきて、どうしようかと考えているところです。

#### 【委員長】

担い手のことは毎回テーマになっているので、単に不足していますというだけではいけないと思います。地域では福祉以外の活動については活発にされている方もたくさんいらっしゃいますので、そういったところとの架け橋をどのようにつくっていくのかについては、次の重層的支援体制整備事業のテーマにもなっていますので、計画の中でも考えていけたらと思います。

ここまで、アンケート結果に基づいて委員の皆さんから様々な課題提起をしていただきました。計画の中での取り扱いについては、事務局でご判断いただければと思います。

個人的には、10 ページの Q41 で「万が一何かあった場合に頼れる人の有無」を聞いていただいています。8 割の方には万が一の時に頼れる人がいらっしゃるということで良かったのですが、逆に言うと 2 割の方は、わからなかったり、いなかったりすることですので、これは少し細かく見ていただきたいです。若い人であれば自分で何とかできるかもしれませんが、高齢の方だと難しい部分もありますので、この 2 割のうち高齢の方はどれぐらいの規模でいらっしゃるのかということは今後の支援策を考える上で重要なデータになると思います。

#### 【委員】

担い手不足については、先ほど出ましたように災害などの出来事があったときに、地域の連携や力などに関心を持たれるということから、何か動機づけが必要だと思うのですが、そのような大きなことが起こるより、もっとハードルの低いところで、何か動機付けになるものがあればいいと思います。また、今後は担い手がどんどん縮小していくので、限られた担い手でできることを考えなければいけないと思いました。しかし、そうすると今ある自治会とか民生委員とか既存の枠組みでは到底維持できないので、既存の枠組みでは無理だと受け入れて、共助、互助の新しい枠組みをつくることができたらいいと思います。若い人でも地域で活動をしている人もいるし、福祉に関心を持っている人もいますので、そのような人たちと既存の枠組みの人たちがつながる仕組みがあればいいと思いました。

#### 【委員長】

人材不足が進んでいく中で、これまでとは違う考え方が必要になるということは、今後の地域福祉計画のテーマであると思いますし、次に説明をいただく重層的支援体制整備事業のテーマでもあると思います。

## 2. 議事② 重層的支援体制整備事業の取り組みについて

～事務局から議事②について説明～

### 【委員長】

前回の会議時点より事業が進んでいる感じがしました。重層的支援体制整備事業は、国の事業で全ての自治体で行っているわけではなく、手を挙げた自治体を実施するという事業です。京田辺市では、令和9年度の本格実施に向けた準備段階であることと京都府のモデル事業を受諾されていることの説明がありました。そして、先ほどの地域福祉計画の中に重層的支援体制整備事業の実施計画も包含するということで、そのような意味もあって皆さんに共有しているところだと思います。

それでは、ご質問ご意見がありましたらお願いします。

### 【委員】

私は相談支援のあり方検討会に参加しています。この1年、月1回程度、相談支援の関係で包括支援センターの職員や子育て支援課の職員と話をしました。先ほどの資料にも書かれていますが、それぞれが一緒に考える場でありたいというところをきちんと整理して会議を始めることができたので、参加者の皆さんは多領域ですが、比較的水平方向の話ができたことと、細かい考え方だったり障害のある方のニーズの捉え方だったり一緒に話をする機会がありましたので、この会議については、とても丁寧に実施できたという実感があります。また、前回もこの会議でも話をしましたが、私たちは「つなぎ」とか「つなぐ」という言葉をよく使いますが、そうではなくて主体的な意味の「つながる」という言葉が、ちょっとした言葉のニュアンスかもしれませんが、大切だという話も共有できました。すごく有意義な時間だったと感じています。

### 【委員長】

これは結構大事なことで、今までの福祉は高齢とか障害とか子どもとか、縦割りでしたが、それぞれの分野の人たちが皆で集まって、いろいろな課題をたらい回しにしないようにするということが、非常に有意義な取り組みだと思います。

### 【委員】

私は12ページの地域づくり事業のプラットフォームとなる「つながる広場たなごころ」の準備を一緒にしています。先ほど、今までの地域福祉の担い手だけでは将来的に難しくなるのではないかといいましたけれども、新しい担い手をつくる目的ではありませんが、もしかしたらその一つの材料になるのかもしれないと思うのが、公的な部分

とか、個人的に取り組んでいることとか、地域を少しでも良くしたいとか、自分の隣の困っている人が少しでも楽になるようにしたいとか、そういう小さな取り組みから、京田辺市全体のことを考えながら活動している人まで、いろんな人がいると思いますが、そういう人たち同士の接点が実はあまりないと思います。そこで、「つながる広場たなごころ」という取り組みを、いろいろな人たちが実は同じ方向に向かって活動しているということがわかり合える場、知り合える場に育てていきたいと思っています。

#### 【委員長】

プラットフォームと言うと分かりにくいですが、大きな駅の電車のプラットフォームを思い浮かべていただくと、いろんな電車が出たり入ったりしていくイメージで、人が出たり入ったりしながら、緩やかにつながっていろいろな化学反応を起こして、新しいつながりが生まれる、そういう場をつくる最初の一步という感じですね。

#### 【委員】

お二人の話を聞かせていただくと、重層的支援ということが具体的によくわかりましたが、こういうことは非常にシンプルにやってほしいと思います。何とか事業、何とかモデル、何とかプラットフォームとなると、本当によく分からなくなると思います。本当にこれで公的な支援を求めている、ひきこもりの人たちのところに届くのだろうか、かえって距離感を感じたりしないだろうかと思います。それぞれやらないといけない状況もあるとは思いますが、やはり顔を見て、話をして、共感して、お互い助け合ってみたいなことが基本だと思いますので、それがよく分かるようにしてもらいたいです。

また、担い手の話で言うと、ボランティアの人数自体が減っているわけではないと思います。そう考えると、本当にできる状況を公的援助という形ででもつくっていく、ボランティアに対してもきちんと補償していく必要があると私は思います。そうしないと、ボランティアは実のところ持ち出しが多いのでだんだん先細りすると思います。

#### 【委員長】

シンプルに伝えることは大事だと思います。重層的とか、包括的とか言うと、だんだんと分からなくなってくるので、市民の皆さんにはシンプルにお伝えして、専門職同士はしっかり議論していけたらいいと思います。ボランティアについても、地域福祉計画の重要なテーマだと思います。

#### 【委員】

資料を読ませていただいて、素晴らしい内容で、連携がとれるいい事業だなと思いましたが、いろいろな人たちが一つの事例を共有するので、いい方向に持っていける反面、個人情報安易に流れていかないか心配でもあります。また、1か所の窓口で

そっと相談したい人がいることも、分かっておいていただきたいです。この取り組みに乗ってすごく助かったという人と、密かに支援が受けられてうまくいったという人と、いろいろなケースがあることを考えていただけたらと思います。

**【委員長】**

指摘いただいたことはとても大事で、みんなで共有して検討されるなんて嫌だな、こっそり相談したいなという方は、たくさんいらっしゃると思います。そういうこともしっかり受け止めることが必要だと思います。

**【委員】**

いろいろな問題点を挙げることはできるのですが、建設的な意見というか、これをどうしたらいいのかということとはなかなか難しいです。私の住む地域は京田辺市で一番小さな46世帯の地域なので、ほとんどの方の顔と名前がわかる関係です。それでも、地域の課題、福祉の課題、災害の支援、環境のことなどいろいろありますので、世帯が何百何千もあるような地域では、もっと根深い事情があるのだと思います。それでも、地域でできることや地域でしなければいけないことはたくさんあると思います。先ほど他の委員からの意見もありましたが、これからは、地域福祉の範囲だけで議論するのではなく、災害、環境、自治会の活動などいろいろなことを含めて、根本的に仕組みを変えるということを考えていかないと、人の意識はなかなか変わらないと思います。その上で、この地域福祉計画をどのように進めていくのかということについては、皆さんの専門分野の意見を十分聞かせいただきながら検討していけたらいいなと考えています。

**【委員長】**

総括的にまとめていただきました。地域福祉計画の策定については、委員の皆様からいただいたご意見を踏まえて検討を進めてまいりたいと思います。

それでは本日の会議はこれで終了とします。ありがとうございました。

～閉会～

終了